



九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.246
2014(平成26)年 8月28日(木)発行

「八月や 六日 九日 十五日」○8月15日はアジア・太平洋戦争終結の日で、戦争と平和を誓う夏です。○今年、8月11日を祝日「山の日」に決定。もしかしたら、平和・民主日本の出発日の8月15日を「終戦記念日」の祝日にしないための陰謀かと勘ぐってしまいます。

▼これは2008年8月に本会が南相馬市原町区錦町の県道沿いに建てた看板ですが、特に3・11震災以後、ボランティアや被災地視察で全国から訪れる方々に注目されています。東京・上野の東京都美術館で8月20日まで開催の「第62回平和美術展」にも、この看板の写真が展示されました。また9月24日に南相馬市を視察される「東京都北多摩東退職教職員の会」55名は、この看板の前での記念撮影を、訪問の一大目標にされています。

○秋になると、この看板の周
辺にはコスモスが美しく
咲き乱れますが、それは
本会平田会長の奥様の、
ふだんからのお手入れの
たまものです。○皆さん
で感謝申し上げます。



世界は憲法9条をえらび始めた

あなたは9条を変えて戦争に行きますか？

はらまち九条の会

この看板の「2つの文言」は、思いがけず今年度のノーベル平和賞の候補になることを予言したような、また今年7月、安倍内閣が解釈により憲法9条を変えてしまおうと閣議決定をしたことを憂慮する言葉になりました。ますます、この看板の意義が深まってきました。

「原発は安全」・・・でも、事故は起きました！ 「徴兵制はありません」・・・でも、信じられません！

▼2014年8月12日『朝日新聞』よりコピー

枝野幸男
元官房長官
(民主党)

加藤紘一
元自民党
幹事長

野中広務
元自民党
幹事長

村上誠一郎
元行革担当相
(自民党)

安倍晋三
首相

「徴兵制」をめぐる発言など

- 14年 5月18日 必然的に徴兵制にいかざるを得ないと思う
さいたま市の講演で
- 18日 集団的自衛権の議論は、やりだすと徴兵制まで
行き着きかねない。戦闘すると承知して自衛隊に
入っている人ばかりではない
「しんぶん赤旗」のインタビューで
- 23日 若い人たちが戦闘地に出て行って死ぬ。自衛隊
志願者がいなくなる。そうなったら徴兵制が出てくる
TBSの番組で
- 7月 1日 地球の裏側まで(自衛隊が)行くことになれば、徴
兵制も考えないと実行できなくなる 国会内の会見で
- 5日 内閣官房がHPで、徴兵制の採用について「全
くの誤解。憲法上認められない」と明記
- 14日 徴兵制は憲法違反だと私はこの委員会において
明確に述べている。全く考えられない
衆院予算委員会で

●安倍政権が集団的自衛権を容認したこと、今、全国で「徴兵制」を不安に思う国民が増えています。政府が「徴兵制は考えていない」と言っても、震災後、特に原発事故で甚大な被害を受け、政府の数多くの白々しいウソに翻弄されている私たち被災民には、とても信じられないことです。●少子化や経済格差が「徴兵制」導入に拍車がかかるという懸念もあります。●左の表は、最近の政治家の発言ですが、みなさんはどう思われますか。

「憲法九条にノーベル賞を」の署名、ご協力ありがとうございます

○全国で「憲法9条にノーベル平和賞を」の署名活動が進行中ですが、「署名」は、本会事務局員か、直接座間市の呼びかけ団体へ、お届けください。○子どもさんでも、代筆でもOKです。



体育館の床も
陥没したままです

◆8月15日現在、本会会員数は438名 (氏名公表可368名、匿名希望者70名)。

震災から3年半ですが、避難して住所不明者が18名、退会14名、死亡13名で、計45名が会員名簿から消えました。でも会員は震災前より増えている、「9条が危ない」と不安をもつ方が多くなっているのでしょうか。



▲7月26日、「県九条の会・全県交流集会」にて。

左が本会事務局員の栗村文夫夫妻。右、県九条の会代表の吉原泰助氏ともお話できました。

7月26日(土)に、福島県内の九条の会・全県交流集会が郡山市労働福祉会館で開催され、参加して来ました。それぞれの会の活動を知り、交流ができ、有意義な一日でした。

質問したのですが、「はらまち九条の会」以外にウェブサイトを持っている会一つもなく、インターネットを活用している会ありませんでした。そこで、本会の事例も説明し、インターネットの活用を提案しました。

「小高九条の会」の青田利幸さんもいらっしやっていて、『憲法』小冊子のことも話してください、「はらまち九条の会」のことを、少しですがアピール出来たかと思います。より連携していければと思っています。(報告・栗村文夫)

「会報収録集」の発刊は来年12月に

「はらまち九条の会」発足10周年記念として

◆今年中に会報『九条はらまち』101~250号の収録集を発刊予定でしたが、8月27日の事務局会で、次のように決定しました。

本会は、来年2015年12月に発足10周年を迎えるため、その記念として発刊する方がより有意義と話し合いました。

すでに印刷経費のカンパや、1部2千円のカンパ(非売品)をお預かりしていますが、ご希望の方は、事務局員にお申し出ください。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



▲2011年3月11日、地震後の午後3時38分、大津波に襲われた浪江町請戸小学校。海岸から500mの校舎内は津波の爪痕はそのまま、息をのむ光景が残されています。全校児童は、迅速な避難で2キロ西の大平山に逃れ、全員無事で賞賛されています。

(現在、浪江町に入るには特別な許可が必要です。)

7月20日(日)午後、事務局員一同により、浪江町の被災地見学会を実施しました。案内役は新事務局員の志賀勝明さんで、浪江町の請戸橋、請戸小学校、希望の牧場、浪江駅前の新聞販売店、浪江町役場などへ。

請戸橋から、南に事故を起こしたイチエフを、北には設置を断念した東北電力棚塩原発予定地を遠望。もしも棚塩原発が設置されていたら東日本の壊滅は免れなかったと言われています。それを知る国民はいませんが。

請戸小学校内のすさまじい津波の爪痕にも、強いショックを受けました。とにかく、原発事故後初めて目にする浪江町は、まるで別世界のようでした。(報告・早坂吉彦)



◆<上記>の志賀勝明さんは、会報195号・239号で体験や被災地の案内を話していますが、8月27日の『東京新聞』に、10⁺圏内の浪江町や請戸地区を2千人も案内している様子が大きく記事になっています。放射線量の公表と現実の数値の大きな差を見てもらったり、「もしも東京で12万人が避難していたら五輪を開催したろうか」と話しています。

◆震災前南相馬市の自宅に住んでいた夏の今頃は、家庭菜園での野菜が楽しみでした。ナス、きゅうり、ピーマン、獅子唐、唐辛子、オクラ、茗荷等々。朝オクラの花が見事でしたし、青紫蘇の葉を摘んで刻みソーメンの薬味にしたり。そんなささやかな楽しみも原発事故で一蹴されました。(山崎健一)



《「はらまち九条の会」事務局連絡先 市外局番はTEL0244》○会長：平田慶肇 TEL24-1211

○石田賢二 TEL22-4037 ○早坂吉彦 TEL22-0326 ○番場恵子 TEL22-0715 ○志賀勝明

○事務局長：山崎健一(神奈川県避難中TEL090-7527-5453 Eメール:yamazakiken1@gmail.com)

○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892

○ホームページ担当：大浦祥見 TEL24-0704:栗村文夫・桂子TEL090-8851-6904